

## ふきのとうみんなの家さら 2021年度 第3回運営推進会議

今年度第3回の運営推進会議を紙面にて行います。

資料をご覧いただき、ご意見、アドバイス、ご感想をお寄せください。

### 【さらの運営状況と課題】

#### 1. 利用状況(2021年11月～2022年2月まで)

2021年 月	通い 利用者数	泊り人数 (延べ)	訪問回数 (延べ)	その他	特記
11月	10	40	160	○ <u>新しいご利用者</u> (腰椎圧迫骨折で入院し 1か月後退院⇒利用) 88歳 男性 妻81歳 子どもなく老々介護 10月に利用契約。要介護3, 心臓機能障害3級(ペースメーカー装着)一過性虚血発作あり。家族は通所希望だが、訪問から少しづつ慣れていたことにする ○要介護2だった女性(85歳 独居)が11月から介護1に。	
12月	10	42	158		
2022年 1月	9	39	153	○97歳(男性 要介護3 介護者妻86歳、妻と二人暮らし)がさらから救急入院(1/8)後、逝去1/13)※①	
2月	10	36	153	○ <u>新しいご利用者</u> (週3回の透析、87歳 男性、要介護1 主たる介護者の妻(87歳)が腰椎圧迫骨折で動けず、夫の利用となる。同居の息子は日中は仕事あり。	

※①：拡張型心筋症、ペースメーカー装着、アルツハイマー型認知症、糖尿病。

急性腎不全、ジキタリス中毒症、腰椎圧迫骨折で令和2年5月入院。9月退院。以後、さらご利用。

12月に入って体力が落ちているなど感じてきた。食べるのが大好きだったのに、時々食が進まない日があり、座位での前屈(もともとあったが)が一層ひどくなり、ご飯がたべにくくなつて、雑炊やリゾット、煮込みうどんなどを用意して、食べていただいた。「しんどい」とおっしゃって、ベッドで過ごす時間がだんだん多くなってきた。

12月31日はさらで入浴後ベッドでぐっすり眠り、13:30頃昼食を残さずたべた。移動は「イチ。

ニ、サン、シ」と元気な掛け声で片道50歩くらい歩けた。

新年は、1月3日よりご利用になったが、ご本人の体力はさらに落ちているように感じた。

体温 36, 2°C 血圧 82/46 再検 98/63 脈 92 再検 88

ご利用前にご家族から相談があった。「夜間、自分で起き上がって転倒してしまったようである。食事も自分でできなくなっている、迷惑をかけるのでデイ利用を迷っている。」「介護が大変な状況の時こそデイを利用されたほうが良いのでは」とお勧めした。シャワー浴で確認したが、搔き傷以外に転倒による打撲跡や傷などはなく、眠って休息出来た後は、手引きで歩くこともでき、食事もとれた。

しかし、これまでより全体（体力・気力とも）として低下した感じがあり、ご家族とも相談しながら、ご家族の支援も含めて対応していくこととした。

「これまでにもこういうことがあったが、何とか持ち直してきた。夜に時々わけのわからない行動がある。ベッドから降りて床に寝ていて、戻すのが大変なの」。ご高齢の妻（87歳）にはどんなに堪えるだろうと思い「そういう時は電話をください。夜中でもお手伝いに行きます」とお話ししたが、家の中に他者を入れない方針なので、SOS電話はなかった。しかし、ご家族が明らかに疲れておられるのが見てとれた。「一晩では疲れが取れないの」とおっしゃるご家族の疲労回復を願って、6・7日は連泊していただくことにした。ご本人の状況はあまりよくなかった。

1月5日：デイ利用 この日もご家族から「夜間ベッドで動いて裸になったり、床に寝ていたり、様子がおかしかった。今日の利用は休んだほうかよいか？」と相談があったが、老夫婦で置いておくのが心配であるのと、何か起こっても助けに入れないことを慮って、利用していただいた。

体温 36,0 血圧 90/61 (12月31日は 110/84) 脈拍 92 移動は車いす。飲み込めない様子があり、とろみをつけたりしたが、食があまり進まない。エンシュア1缶はスムーズに飲めた。水分摂取量 550cc (11:00~16:30)

主治医に相談し、往診の日より前にエンシュアを1日3缶処方してもらう。往診を希望したが、無理との返答だった。

1月6日：9:30、今日から連泊 妻から電話、「準備が間に合わないので、用意出来たら電話します。昨日より元気です。」送り出し準備が大変だったようで、11時過ぎにお迎えに行った。（以前からデイの送り出しの準備、車椅子への移乗などを手伝わせてほしいとお話しするも、諾は得られていないのでこの日も門の外でお待ちする。門も通常閉じられている）

前日より表情よく、食欲もある。

体温 37°C 血圧 95/54 (11:00) 再検 (13:00) 121/73 SPO<sup>2</sup> 95%

昼食のペースト状のカボチャを、エビのような前屈状態になるのを支えながら、パクパク召し上がる。

夕食のにゅう麺、ポタージュスープ、卵雑炊を少量ずつ残さず食べ、エンシュア1缶も飲む。受け答えもはっきりしていて、「トイレに行きたい」との意思表示もあった。

夕食：エンシュア1缶 (250cc)、甘酒100cc、マドレーヌを食べたいと3分の1ほど。服薬。

21:30頃から、よく眠る パット交換・かゆみの薬を塗布などいつものように数回。

\*14:00 ご家族（以後妻と表記）来所し、今後についてさらのケアマネと話し合う。

意識も食欲も体力もすべてかなり低下していることを伝えるが、妻はそれほど厳しくはとら

えていない。「今後入院や施設入所するとそのまま帰れなくなるよね」と、それはあまり気が進まない様子。しかし妻自身の自分の体力にも不安がある。さらの在宅看取りの例も話し、「奥様をお手伝いする形でお家の介護が可能ですよ。」と伝えたが、決心がつかない。(入院や施設入所は嫌だけど、自分で介護する力もないけれどまだ頑張れると思いたい、在宅での看取りまでのお手伝いをしますという申し出も受けない…揺れる気持ちもわかるが。)

1月7日：朝10時まで眠る。吸い飲みで麦茶をごくごく。

体温 36, 3 血圧 122/44 脈 75 SPO<sup>2</sup> 98, 1

朝食はミキサーで滑らかにしたにゅう麺、卵雑炊、ポタージュスープ、服薬

むせることなく、用意した分をすべて召し上がる、この時食欲あり(スタッフ一同喜ぶ)。

昼食は召し上がらず。主治医には現状を報告。ご家族にもご様子を報告。

夕食：エンシュア1缶、甘酒100cc、服薬

この日の水分量：1100cc

1月8日：8:30 清拭(便少量)

体温 37, 9 血圧 83/36 再検 83/41 SPO<sup>2</sup> 計れず

往診を依頼

9:00 エンシュア 服薬 ご家族にも発熱があることなど報告し、お疲れでなければ、様子をみにおいでくださいと連絡。

10:30 往診 採血 点滴 腕を動かすので段ボールで添え木(包帯で結わく)

服薬は医師から連絡があるまで中止 ご家族来所、ご主人に励ましの声をかけるなどして「またきます」といったんお帰りになる。

11:50 ご家族(妻)から、「別件で主治医に電話をしたら、今、入院先を探している」

と言われたと報告あり。(この時点で、入院になることを妻が了解したと理解した。)

医院より身体障害者手帳をすぐに持参するよういわれ、さらのスタッフが家まで取りに行って届け、記入してもらって、妻に渡した。

14:00 入院先が決まったとDr.より電話あり。

15:00 妻が乗り込んで救急搬送。

19:00 妻より、入院先の病院で「感染はしていないが、年齢もあり、治療は不可。今夜が山場」と言わされたと。

1月10日：こちらから電話して妻にご様子をお聞きした。病状に変化なく、一日おきに病院へ見舞っているとのことだった。

1月13日：妻より、「病院で死亡」の電話。

## ○要介護度別ご利用者数 R3(2022)年 2月現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人 数	0	0	7	0	1	1	1

介護度の下がった人 1名女性 84歳 (介護2→介護1)

介護度の上がった人 なし

### ○ご利用の仕方(2022年 2月末現在)

訪問のみ	通い(デイ)のみ	訪問と通い	通いと泊り	通い・訪問・泊
0	1	4	4	1

### ○家の状況

独居	配偶者と同居	子供世帯と同居	(その他) 支援者と同居 ※②
2	7	0	1

※② ペルーで生まれ過ごしたが、30余年前に来日し、八千代市に姉・妹と3人で暮らしていた。

姉と弁当屋で働いていたが、姉・妹が死去し、日本語を話せず、放っておけない状況になって、同郷のペルーの女性が自宅に引き取り支援している。R元年より四街道に住む。R3年11月よりさらをご利用。後見人あり。

要介護1、日曜以外の毎日デイ利用と時々泊り。今もスペイン語しか話せない。

### 2. 職員体制 変更なし

常勤介護職員 6名 (兼務4名) さら・ぱお・訪問を常勤でこなす1名 4日常勤1名)  
非常勤介護職 4名  
非常勤看護師 1名  
食事作り担当者 専任1名、兼務2名  
ふきのとうからの応援 ふきのとうのボランティア 数名 時々

### 3. ヒヤリ・ハッと記録から

月	服薬に 関すること	転倒・危なかった	忘れ (迎え・報告・持物等)	間違え 記録等の綴じ間違 い	その他

R3.11月	2 ※③	1 ※④	5 上着、バスタオル などの入れ忘れ	3	3 洗車中のアンテナ破損
12月	0	0	2 排便の記録表に 記入忘れ	3 連絡帳のケースを 取り違え 薬袋の取り違え	1 お茶碗を下げに来た ご利用者とぶつかり そうになった
R4. 1月	0	2 ※⑤ ※⑥	3 衣類の返し忘れ 窓の閉め忘れ	3	1
2月	0	0	5 入浴セット、マスクなどの持参忘れ、電気の消し忘れ	1 歯ブラシのキップ の間違え	

※③ 2回とも同じご利用者さんへの服薬終了後、口腔ケアに移動するときに錠剤が1個タオルのエプロンにくっついているのを発見、すぐに服用した。(朝9錠、夕7錠、他に下剤2錠ずつと薬が多い)2回目のミスの後、ミーティングをして、飲みこぼしのないようにする手段を検討した。手のひらに2~3錠ずつ置いてあげるやり方から、シロップ状の薬を飲むときの透明な小さいキャップを利用しようと実行に移した。以後、飲みこぼしはない。

※④ 左半身まひの男性の移乗の際、介助者が車いすから抱き上げて立位を取ってもらおうとしたが支え切れずに一緒にくずおれるように転倒。二人とも頭も打っておらずけがはなかった(入浴時に丁寧に点検)。このご利用者は立位を維持することが出来ず、非常に不安定であることと、特製のクッションの移動もしなければならないので、移乗は必ず2名で行うことを改めて共有・確認した。

※⑤ 上記④のご利用者が、椅子に座ったままでうとうと眠っていることが多いので、様々にリハビリ運動をやっているが、長い食卓の周りを食卓に右手をつきながら、歩いて回る運動をしていた時に、よろけて転倒。頭などの打撲はなかったが、翌日の入浴の際に看護師が身体中を点検した。どこにも異常はなく、本人はけろりとしている。

※⑥ 肘掛け椅子に座ったまま居眠りしていた男性が、夢を見たのか急に立ち上がりろうとして、しりもちをついた。けがはなかったし翌日の入浴の際によく見たが打撲の跡も認められなかった。

## 2. ぴっかり・ほっとノートより

\* 独居の M さんの訪問時、M さんが過去の連絡帳をどっさりテーブルの上に置いて開いていたので「昔の連絡帳を見ていたのですか？」と聞くと、「うん、だけど、みんな、気を遣いすぎだよ。こんなに気を遣って書いてくれなくてもいいのに、私は家族みたいに思っているから」と、言ってくれた。(ウルっとした。)

### 【さらの課題など その後】

#### ○ ご利用者数の伸び悩みについて

運営推進委員さんから具体的なアドバイスをいくつかいただいた。(本当にありがとうございました。)

\* 早速自治会役員さんに相談し、旭ヶ丘の自治会館で、週一体操の後のお時間をいただいて、2回にわたって「さらの説明会」を開催させていただいた。(2月 15 日・22 日)

\* みそら団地でも、同じような説明会の許可をいただいている、オミクロン株の感染状況をみて日程を決める予定。3月 22 日になりそう。

これだけですぐに効果が出るとも考えにくいので、引き続き多様な広報を考えていきたい。

#### ○ 自家発電機の助成金の申請

令和 4 年 1 月 6 日 厚労省の補正予算による助成金の申請をしたが、結果はまだでていない。

令和 4 年度の補助金についても発表があり次第、申請の予定。

## 3. 新型コロナウィルス感染への対応

\* 旭ヶ丘にあるふきのとうの小規模通所事業所 みんなの家ぱおに、感染者が出て、1月 27 日から 2 月 5 日まで休業。ぱおとさらの両方で勤務する介護者が接触の疑いがあり、PCR 検査の結果が出るまで休んでもらったが、陰性であった。ほかにのどの痛みが出たスタッフについても PCR 検査の結果が出るまで自宅待機となった。

\* 日本財団の PCR 検査（無料）のサービスを利用して、全員が週 1 回の検査を実施しているが、郵送して検査の結果が出るまでに 3~4 日かかり、やきもきすることもある。結果がすぐ出る検査キットが普及してくれたらよいのにと思う。

#### 4. 行事の報告

- 外食の日：近くのレストランの休業日にさらに貸し切りで、しかも 2 日に分けて、しゃれた昼食を提供してくれ、全員が外での豊かな食事を楽しんだ。
- クリスマスお楽しみ会：全員参加で、ゲームやクイズ、bingo、クリスマスのご馳走と手作りのケーキなどを存分に楽しんだ。さらの最年長者、97 歳の男性のケーキの食べっぷりの良さがその後しばし話題になり続けた。
- 日曜日の居場所カフェ、みんなの「さんさん」は、誰も来ない日が一度あったが、それでも開けているので、「気が向いたときにどうぞ」という緩やかさが、だんだん浸透していけばいい。
- さらで予定している「 shinちゃん食堂」は、コロナがもう少し収まつたら開始の予定でスタンバイしている。第 1 日曜日、11:00～13:30、さらのリビングや庭などで、簡単なお昼を食べて、談笑ができるばよいと、これも緩やかに行う。お昼ご飯は 20 食まで。無料でどこまでできるか。もう少し感染の状況が好転したら、学校を通して、子供たちにも開放したい。

#### 5. 避難訓練

10 月 29 日 13:00～

ご近所、自治会に声をかけて、参加いただいた。ご近所から 1 名と自治会から会長以下 3 名が参加。自治会役員さんたちは開始の 15 分前に来てくださり、スロープで車いすの操作や、下りの際の注意事項、車椅子の開き方閉じ方などをおさらいした。

予告なしで「火事です、火事です」とアナウンス。泣き出したご利用者さんがいたが、想定の火の手に近い出入り口を避けてリビングの掃き出し口から避難開始。外で待機してくれていた自治会の方たちに、車いすの人を含めて次々にご利用者を連れ出してもらい、公園に避難した。建物内に逃げ遅れた人がいないか点検をして、全員公園に集合し、点呼。

その場での自治会長の感想：こういう現実的な訓練をしたことがないので、勉強になった。もつとこうした訓練をしておかなくてはいけないと実感した。

今後、春・秋の 2 回、実施したい。

## 雑 感

### 救急搬送の5日後に病院で亡くなられた方の、ご家族のお気持ち

夫を最後まで妻の見守りの中で過ごさせたいと思っておいでだったのは、明言をなさらなかつたが、私たちには感じられていた。具体的ではないけれど理想はお持ちだった。だから何度か水を向け、具体的なことを相談しようとしてきたが、それを可能にするためにご自身が乗り越えなければならない覚悟を持てなかつたように思われる。

医師であったご自身の父親をご自分が独りで最期まで介護・看護し、看取ったこと、だから看護も介護も一通りのことはできるという話はなんどもお聞きした。しっかりした自信をお持ちなのがわかつた。が、その頃はご自身がまだ十分に若く力があったはずだから、いま同じことをなさろうとするのはご無理なのだが、そこは「私も年を取ってしまい、疲れで何度か倒れて意識を失ったこともある」とおっしゃりつつも、頑として人の手を借りようとはなさらない。妻は地域の人々に対して面倒見がよく、友人・知人も多く、日々忙しい方だから、家の中をいつもきれいにしておく余裕はないだろうと思っていたし、掃除が行き届かないことを批判的に見ることも私たちは決してしないのだが、夫が玄関先で転んでも、手助けできず、鍵がかかっている門の外で待つだけだった。

毎月お渡しする報告書（一か月間のご様子などを報告）に、時々ご丁寧なお手紙を下さり、さらのスタッフがよく観察していて夫が喜びそうなケアをしてくれているのがわかって嬉しいなどとしたためあり、いつも感謝の言葉が綴られていた。何事にも丁寧で気遣いの深い方と理解していた。私たちの過失で、ご主人にやけどを負わせてしまって、何度もお詫びした時も、「いろんなことが起きて当たり前、仮にさらさんで、主人が急死なんてことになったとしても、それはそういう運命だっただけのこと」と言って逆に慰めてくれた方だった。完治後に改めてご挨拶に伺った時も門のところでの長いお話になった。

しかし、この度のご主人のご逝去については、複雑な、割り切れない思いをたくさん残すことになったのかもしれない。豪快に緻密にいろんなことを俯瞰できるかたであったが、ご主人の最期を具体的にどうするかについては、まだ先のことと思っていらしたのか、具体的な画は描けていなかつたけれど、実際に起こったようではないお別れを思い描いておられたのかもしれない。父親にできたような完璧な最期にできなかつたやりきれなさをどこに持って行ってよいのか、苦しんでおられるかもしれない。

月命日を過ぎて、お花をもって「ご挨拶に行きたい」とケアマネが電話をしたが、「要りません」。ともに悼むことを許してもらえず、私たちのケアの不足、何がいけなかつたかなどを何度も振り返りつつ、ご家族の思いを十分に察することができなかつたこと、ご家族に寄り添えなかつた力のなさに、私たちの気持ちも深く沈んでいる。